

本事例集でご紹介した活動団体等の方々を対象に、横のつながりをつくること、それぞれの活動・団体等の強みや共通の課題を共有し今後の活動展開に役立つようなヒントを得ることを目的に、リモートで座談会を開催しました。座談会の中で出された意見の一部をご紹介します。

テーマ01：中山間地域・棚田地域の未来と活動の継続・継承

活動を継続・継承していくために



若い世代への活動の継承や新たな取り組みへのチャレンジ

- 水俣への移住者が発案し、地域内外の若者が中心となって、聞き取り調査等を行った。大勢ではないけど、**彼らのような人がいるので、活動の場をつくっていこう**と考えている。
- 地域特産のサツマイモ、ジャガイモを活用した焼酎づくりをオーナー制で行なったが、高齢者では重量作物の栽培は大変で、生産者としての利益があがらなかった。**軽量作物導入にも取り組み、新たな商品開発**を行っている。



地域と関わってきた人々との絆を絶やさない。地域の状況にあった活動

- 地域の高齢化率が70%となったが「まちづくりやべ」の支援を受けながら、身の丈に合った活動を続けている。平成8年から「棚田オーナー制度」に取り組んでいるが、**オーナーが田の管理まで自主的に行う形に変化したので、オーナーがやめると言うまでは続けよう**と思っている。
- 廃校利用の交流館を活動の核として、**体験・交流活動や地域の生活支援活動**を行っている。いろいろな方の協力のもと**松谷棚田の再生・保全活動**を続けていきたい。



地域全体で田んぼの多面的機能や生業としての農業伝承

- 都市部の家族連れを対象として体験・交流活動を続けていたが、時間的な制約もあり、田んぼの管理作業に携わってもらうことは難しく、**気持ちだけが先行した**。活動組織の継承も考えていく必要があると思う。
- 宇土市では、市全域の小学校で「田んぼの学校」に取り組んでいる。緑川小校区では、**「地域全体で子どもを育てる」という考えで、学校と地域が連携した活動**となっている。



福祉と農業が結びついた、新たな農業の展開

- 花き（カスミソウ）栽培は自然が相手なので天候などには苦勞するが、**市場価格の高い時に出荷できるよう栽培時期を調整するなどの工夫**をしている。今後は、栽培面積を増やしていきたい。
- 障がいを持った方々が農業や加工品製造に取り組むことで、福祉のイメージを変えつつ、**多業種と連携しながら、福祉が求めている「地域ワークのモデルづくり」**に取り組んでいる。



次世代につないでいくための地域ぐるみの活動

- 緑川、白川の水源地域で小学生を対象とした体験学習を行っている。どんぐり拾いなどの**楽しい遊びの要素も取り入れながら、子どもたちに涵養林などの保全活動を継承**していくことができたらと思っている。

テーマ02：活動の活性化を目指した情報発信の連携方法

現在行っている情報発信の手法と課題

- Facebook やメルマガで情報を発信している。新聞に記事を掲載してもらった際も反響は大きかったが、最終的には口コミの影響が強いと思う。
- Facebook、Twitter や Instagram などでも情報を発信しているが、やはり口コミの影響が強いと感じている。行政と連携し、県外在住の村出身者にも情報を発信している。
- 情報をうまくつかんで、この地区で農業をやりたいという人に来てもらえるようにしたいと思うし、地域の新たな活動の芽に肥しを与えられるような情報発信が出来たらいいと思う。
- 行政の情報発信サイトや様々なツールを用いて情報発信を行っているが、一方的に発信するだけであり、反応が見えない。実際のつながりをつくるのは個人的なつながりだと思う。
- 広く情報を発信したほうが良いと思うが、ターゲット層に合わせたツールを使う必要がある。
- イベントを開催する際は、近隣の都市住民をターゲットにしているため、アナログ手法の新聞広告やチラシ媒体で告知している。対応できる数は限られているため、ターゲットを絞り込んで、告知の手法を考えている。
- 情報発信はこまめにする必要がある。HPも更新し、見てもらう工夫が必要。Facebook や Twitter などができる方に、団体へ加入していただくのが一番だと思う。
- 情報発信を行う際のルールにも注意が必要。施設利用者の取り組みの様子などを発信する際は、保護者の方への事前説明や写真の掲載方法などに注意している。
- 情報発信は地域中心。「まず、地域内を固めよう」という考えで取り組んでいる。

様々なネットワークを活用した「口コミ」の影響力は強い。

ファンとの継続的な関係づくりが重要！

日々進化していく情報発信ツール。

ターゲットに合わせた選択を！

情報発信を行う際は、ルール・マナーに注意！

地域内への情報発信を大事に！

情報発信の連携と新たなつながりをつくるために

- 本事業を活用して取り組んでいる活動の内容や地域の情報を発信するため、Instagram や Twitter で記事を投稿する際に、共通のハッシュタグ（#ふるさとくまもと）をつけることを提案し、座談会の場でチャレンジしました。
- 共通のハッシュタグ（#ふるさとくまもと）を使うことにより、同様の活動を行っている団体等の活動情報を簡単に検索することができるようになりました。
＜25 ページで情報発信の輪をつなげる方法をご紹介します。＞

